

「学ぶ力」	
実態	成果
実態	<p>◇友達の考えを聞いて、それを参考にして自分の考えを見直したり、深めたりする力が高まってきた。また、分からないことは分かるまで努力しようとする児童が多い。（札幌市共通指標アンケート結果より）</p> <p>◇学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直して、次の学習につなげようとする児童が多い。（全国学力・学習状況調査より）</p>
	<p>◇自分が思っていることや感じていることを友達に伝えることに苦手意識をもつ児童が多い。（札幌市共通指標アンケート結果より）</p> <p>◇自分で計画を立て、見通しをもって学習を進めることを苦手としている児童が多い。（札幌市共通指標アンケート結果より）</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇札幌市共通指標アンケートの「自分にはよいところがある」「人のよいところを見付けようとしている」などの相互承認に関する項目において、肯定的な回答が8割以上を占めた。「ありがとう」とお互いに伝え合うよさを実感し、人とのつながりに重点を置いた本校の様々な活動が、自他を肯定的に捉えようとする意識の高まりに寄与していると考えられる。しかし、「自分が必要とされていると感じる」という設問に対しては、肯定的な回答が7割程度にとどまった。学習やいろいろな活動の中で互いのよさや可能性を認め合い、それを相手にも積極的に伝える場の設定が必要不可欠である。そうすることで、自分に自信をもてるようになり、「自分が大切にされている」と子ども一人一人が実感できるようにしていくことが重要となる。</p>	
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
相手意識をもって聴き合い、伝え合うことで子ども同士がつながり、学びを深める力	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて
取組	<p>◇研究副主題「子どもが聴き合う授業」の実現</p> <p>(1)「問い」を自分事として捉え、学びの見通しがもてる授業構成 【イントロダクション】・問いの焦点化 ・解決方法の共有</p> <p>(2)解決方法を自己決定し、十分に探究できる時間の確保 【個別探究】・学びを進める教師の関わりの工夫</p> <p>(3)相手意識をもった聴き合いを通し、学びを深める交流の設定 【協働探究】・子どもがつながる教師の関わりの工夫</p> <p>(4)自らの学びを客観的に評価し、学びをつなげる振り返りの工夫 【リフレクション】・自分の成長を実感できる振り返りや価値付け</p>
	<p>①「ありがとうの風船」を膨らませる「人とのつながり」を意識した取組の充実 →児童一人一人が主役となり、よりよい学校を目指して取り組む児童会活動や各行事の推進</p> <p>②自分たちの生活を振り返り、成果や課題を捉え、相互承認の感度を高めるための振り返りの場の設定 →学級会や全校朝会等でのリフレクション →児童アンケートの実施と結果の分析</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
<p>◇授業中の活用…オクリンク等のアプリを使って意見や感想を交流し、より多くの見方・考え方に触れたり、自分の考えを深めたりすることができるようにする。</p> <p>◇生成 AI 等を活用した授業資料の作成…より魅力的な教材提示で追究の意欲を高める。</p>	

<本プログラムの実行に向けて>



